

2. 大分県特定家畜伝染病防疫対策特別チーム（B-SAT）の取組および強化

宇佐家畜保健衛生所

○（病鑑）堀浩司・足立高士

【はじめに】

平成23年2月、本県で高病原性鳥インフルエンザが発生した。初動防疫では防疫作業の経験や理解等の不足から発生農場内外で混乱し様々な課題が浮き彫りとなった。同年、課題解消に向け、大分県特定家畜伝染病防疫対策特別チーム（以下、「B-SAT」）を組織し、現在まで研修や演習等を通じ組織や人材育成の強化に努めてきたので、その概要を報告する。

【B-SATの組織と体制】

平成23年5月、発生時の迅速かつ適確な初動防疫を実施するため、発生農場の殺処分リーダー育成や初動防疫調査のプランニング補佐を目的とする、家畜保健衛生所（以下、「家保」）獣医師と振興局畜産担当職員で構成されたB-SATを組織した。B-SATは、部局を横断した28名で構成され、県対策本部・防疫対策部長（農林水産部長）の直轄組織とし、防疫対策部長の指示によって活動可能で、独立性(活動のしやすさ)と併せて幅広い人材を確保をした機動的組織である。組織後は、発生に備えた研修や演習を行い、各種ワーキンググループ（以下、「WG」）での活動を含め、知識や技術の習熟等人材育成に努めてきた。

【H23～H27の主な取組】

①発生農場における殺処分リーダーの育成として、畜産農家での施設研修や家畜の保定研修および家畜を使った炭酸ガスや電殺機の取扱い研修を実施した。また、発生を想定した発生農場初動防疫プランニング研修、特定家畜伝染病の疾病や発生状況等の学習会を実施した。②発生時に活用する家保備蓄資材やリース資機材の取扱研修を実施した。特にリース資機材研修は協定締結したリース業協会大分県支部と連携した。③県域および地区防疫演習への参加による実演形式での作業確認と防疫作業従事者への指導を実践した。④発生時作業場所（現地本部、集会場、CZ）の運営サポートを行うため、各WGで研修を実施した。

【課題】

B-SATは人事異動によって構成員が変更することや新採用および現場経験の少ない職員が構成員となる可能性がある。一方、構成員にはより高度な知識や技術が求められるため、今後はB-SATの初動対応マニュアル（作業概要書）の作成により作業を明確化し、これまで同様、研修等を継続しながら人材育成に努めたい。

【まとめ】

特定家畜伝染病発生時の初動防疫作業を理解したリーダー的存在が必要であることから、大分県では特別チームとしてB-SATを組織し、平時から様々な取組を実施し、技術習得や初動防疫内容の理解度向上に努めてきた。幸いにもB-SAT組織後、本県では特定家畜伝染病の発生は無いが、今後も有事に備えて継続した組織や人材の育成強化を図りながら迅速かつ適確な初動防疫を実施できるよう危機管理体制を強化していきたい。